

【事業名】国内希少野生動植物種シャープゲンゴロウモドキおよびマルコガタノゲンゴロウの生息状況説明および保全対策
(北陸地方、東北地方など) 【団体名】千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会

令和元年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10－6

事業の背景・目的

中～大型のゲンゴロウ類であるマルコガタノゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキは高次の捕食者であり、里山の水辺環境の指標種として重要である。両種についての生息状況調査は、平成23年度の国内希少野生動植物種への指定以後、継続的に実施されてきた。しかし、侵略的外来種の侵入などによる生息の危機が続いており、一部の情報不足の場所を含め、最新の生息状況を把握することは保全上重要である。また、一部の生息地では埋め立てや侵略的外来種アメリカザリガニの侵入、採集圧に対する早急な対策が必要である。そのため、地域とともに協働による保全対策を実施し、今後の持続可能な保全策につなげることを目的とした。

事業の内容

シャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウの分布調査、侵略的外来種対策、地域連携による生息地保全事業を開始し、問題点を把握することにより、問題解決への道筋をつける。3年間の事業を通じ、今後の持続可能な保全を地域主体で実施する体制を構築した。

事業① 生息状況調査事業
・申請時の場所全て、特に近年記録が途絶えている東北地方などにおける生息状況調査を実施し、一部で残存を確認した。

事業② 外来種対策事業
・北陸地方のシャープゲンゴロウモドキ生息地および周辺におけるアメリカザリガニ駆除、東北地方のマルコガタノゲンゴロウ生息地および周辺におけるウシガエル駆除を実施した。

事業③ 地域連携による生息地保全事業
・北陸地方におけるシャープゲンゴロウモドキ生息地の保全活動を実施した。

得られた成果

シャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウの最新の生息状況を地域との連携により明らかにした。各地での喫緊の保全上の課題に対し、効果的な対策を地域との連携により開始した。
シャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウについて、それぞれ残存する地域における調査保全活動を進めた。
いずれも、地元と連携し、令和2年度以降の継続した保全体制を構築した。
侵略的外来種ウシガエル、アメリカザリガニの侵入、ため池の管理放棄が各地でシャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウの生息に危機的な影響を及ぼしていることが明らかとなった。また、令和元年度には、防災重点ため池の廃止問題が生じ、すでにこれらのゲンゴロウ類の生息地の一部が対象とされている。今後の全国的な影響が懸念されるため、地域の理解の上で、環境省、農水省の連携による保全が必要である。